

## 第2回平成28年度外来種調査検討会議事概要

### 1 外来種調査結果について

- ・資料1に基づき説明。(事務局)
- ・オヤニラミの調査をおこなった。オヤニラミは幼魚から成魚までみられ、繁殖しているが、増加は抑えられていると思われる。これは、豊かな魚類相が増加を抑えているからだと考えている。(委員)
- ・室内でオヤニラミと同じニッチと考えられるカワムツを飼育して、その優劣を比較した。カワムツに対する影響はあるものと考えられる。フィールドでは影響は出ていないが、今後注意が必要である。(委員)
- ・オヤニラミはカワムツより採餌能力が高いと考えられたが、卵の数など繁殖の能力ではカワムツのほうが高いと思われる。愛知県の平野部はカワムツが少ないので、オヤニラミが入るとカワムツへの影響は大きいと思われる。(委員)
- ・ここ3年、ブラントラウトは放流していないそうだが、下流の川でもここ3年はブラントラウトの数が減ってきており、関係があると思う。ブラントラウトは在来のサケ科の魚と同様な食性であることから、在来のサケ科魚種を圧迫していくおそれがある。(委員)
- ・ブラントラウトなどが池から出ていかないように網を張ってもらっている。(事務局)
- ・調査で使用している電気ショッカーは長年北米で調査に用いられており、個体群への影響がないことが論文などでも示されている。また、カメなどへの影響もないと考えられる。(委員)
- ・ガーは耐塩性が強く、寿命が長いので、繁殖できれば定着する可能性がある。(委員)

### 2 その他

- ・平成28年度の外来種対策事業について、参考資料1により説明。(事務局)

- ・参加した NPO は、市町村と連携して外来種対策を進める団体である。外来種についてあまり知識のない市町村の職員でも理解し、外来種対策ができるよう、必要性や具体策を説明した。(事務局)
- ・外来種は一度侵入されると、根絶するのはほぼ不可能なので、一般の人にもわかり易いように、オオキンケイギクの駆除を行い、その姿勢を示すことが大事。(委員)